第６６回（令和６年度）

東京都保育研究大会

「すべての子どもの権利と育ちを
保障していく社会の実現」をめざして

開 催 要 綱

〔日程〕 全体会（オンデマンド配信）：令和６年６月３日（月）～３０日（日）
分 科 会 （ 集 合 型 ）：令和６年６月２０日（木）

〔主催〕 社会福祉法人 東京都社会福祉協議会

東京都保育研究大会は、1954（昭和29）年7月に東京・新宿で開催された東京都保育事業緊急大会を起源としています。
開始以来、都内の公私立保育所関係者が集まり、保育と子ども・子育てのあり方の研究の場として開催しています。

第66回（令和6年度）東京都保育研究大会　開催要綱

1　主題

「すべての子どもの権利と育ちを保障していく社会の実現」をめざして

2　趣旨

新型コロナウイルスが5類に移行し、保育現場ではコロナ禍でできなかった様々な行事や活動が再開されるなど、徐々に日常が戻りつつあるかと思います。一方で今まで当たり前だったことができなくなったコロナ禍を通して、皆さんの中に生まれた価値観の変化や、当たり前でなくなったからこそ気づいたこと、見直すきっかけになったということも多くあったのではないでしょうか。

保育人材の不足や待機児童減少に伴う定員割れなど、保育所にとって苦しい状況は続く中で、不適切保育や虐待の報道などを通して、現場には社会の厳しい目が向けられ、「こどもまんなか社会」の実現に向けて、我々には制度や社会の変化に対応しながら、より安全で、質の高い保育を目指すことが求められています。

昨年度大会のアンケート結果などをふまえて、今年度も全体会はオンデマンド配信、分科会は集合型での開催を継続いたします。コロナ前に戻すことだけを考えるのではなく、コロナ禍を通して得た様々な経験や発見を活かしながら、参加する保育関係者がテーマに沿って議論し、研究を深めることを通じて、保育をアップデートする機会になれば幸いです。

本大会は、すべての人が子どもと子育てに関りをもつ社会の実現をめざし、保育内容の充実、保護者・地域への支援、小学校への接続、安全管理等の現状を取り巻く課題について学びあい、専門性の向上を図り、保育関係者の連携を深めることを目的として開催します。

3　主催

社会福祉法人　東京都社会福祉協議会

4　後援

東京都（予定）・社会福祉法人　全国社会福祉協議会（予定）

5　日程

◆全体会（<u>オンデマンド配信</u>）◆

配信期間：令和6年6月3日（月）～30日（日）

（内　容）

①開　　会：30分

②基調講演：90分

③記念講演：90分

※上記時間数は見込みです

◆分科会（<u>集合型</u>）◆

開催日時：令和6年6月20日（木）10時～16時

＜分科会スケジュール（目安）＞

9：30	10：00	12：00	13：30 ～ 16：00
受付	分科会	休憩	分科会

※分科会によって進行が異なります。昼食時間も前後する可能性がありますので、参加者同士で昼食時に待ち合わせる場合は、ご注意ください。

6　会場（分科会）

国立オリンピック記念青少年総合センター
センター棟会議室　等
（渋谷区代々木神園町3－1）

【アクセス】
小田急線「参宮橋」駅より徒歩７分
https://nyc.niye.go.jp/wp/train/
※参加決定者にお送りする参加券にも
会場案内を掲載予定です。

7　対象者	東京都内公私立保育所関係者、福祉・保健・教育・行政関係者、社会福祉協議会関係者、保護者、研究者、学生、その他保育関係者　等
8　運営	この大会は、東京都社会福祉協議会保育部会常任委員会と大会企画委員会を中心に、保育部会地区委員、会員保育所各位の協力によって運営されます。
9　参加費	東社協保育部会 **会員 1人 6,000円 ／ 非会員 1人 9,000円** （いずれも税込み） ※全体会のみ、分科会のみという方法でのお申し込みはお受けしておりません。
10　定員	申込状況・使用会場によって各分科会の定員を設定いたします。原則として先着順となりますので、お申し込み時点で第1希望の分科会が定員に達した場合、第2希望の分科会での決定とさせていただきますのであらかじめご了承ください。
11　昼食について	会場にはイートインスペース(利用無料)もございますが、ご希望の方に限り「カフェテリアふじ(センター棟2階)」の昼食券(お一人　700　円)をご用意します。昼食券の用意を希望する方は参加申込時にお知らせください。 【昼食券の用意について】 ● ご希望いただいた方については、昼食券代(お一人　700　円)を参加費と併せてご請求いたします。 ● 「カフェテリアふじ」はセルフサービス・カフェテリア形式の食堂です。当日はメイン2種類の昼食メニュー(日替)から、お好きな料理を選択できます。 ● 昼食券は当日 11:45～13:00 のみ有効です。 ● 一度お申込みをいただいた後の昼食券の払い戻しはお受けできません。ご了承ください。 ● 当日券もあるため、時間帯によっては混雑が予想されます。お座席の確約はできませんのであらかじめご了承ください。 ● 分科会によって進行が異なるため、昼食時間は前後する場合があります。参加者同士でお待ち合わせされる場合には十分にご注意ください。 【参考】 会場ホームページ（食堂等その他の施設） https://nyc.niye.go.jp/wp/wp/d2-6-html/ ※センター建物内での飲食は、定められたところ以外では禁止となっております。
12　申込み	下記の申込サイトから、お申込みをお願いします。なお、申込サイトは、主催者が参加取りまとめ・参加費徴収の事務を委託する業者で作成されたページです。 **【申込サイト URL】**　**【申込サイト二次元コード】** https://www.ifys.jp/tokyohoiku-taikai/entry **【申込受付期間】** **令和6年4月5日(金)～5月~~8日(水)~~** 22日（水）まで延長 ※代表者様が取りまとめて複数名の参加申込みを行う場合、大会に係るご連絡先、郵送物の送付先は、すべてご登録いただいた「申込担当者」様宛となりますので、あらかじめご承知おきください。
13　参加の決定と参加費のご請求	**(申込受付完了メールについて)** ● 申込受付完了後、登録されたメールアドレス(申込担当者様宛)に「受付完了メール」が届きます。翌営業日を過ぎても「受付完了メール」が届かない場合は、迷惑メールフォルダ等にも未着なことをご確認の上、本会が事務を委託している業者「株式会社アイフィス」までご連絡ください(15　お問い合わせ先参照)。 **(参加決定通知について)** ● 申込受付期間終了後(5月8日(水)以降)、ご参加いただく分科会が決定した後、「株式会社アイフィス」より、登録されたメールアドレスに「参加決定通知」をお送りします。

	(参加費のご請求について) ● 参加費のご請求も本会が事務を委託している株式会社アイフィスが行います。請求書は媒介者交付特例に則って株式会社アイフィスが発行し(インボイス対応)、「参加決定通知」の送付後、申込担当者様の所属施設住所宛に、郵送で送付させていただきます。 ● 請求書がお手元に届きましたら、記載の口座へ参加費をお振込みいただきますよう、お願いいたします(送金手数料は各自でご負担ください)。なお、振込先は株式会社アイフィスの指定口座となります。 (その他) ● 参加費のご入金を持って正式な申し込みといたします。 ● 原則として、ご入金後の参加費は返還できませんのでご了承ください。 ● 参加費の入金確認ができない場合、当日ご参加いただけない場合がございます。振込案内を確認いただけましたら速やかにお振込みをお願いいたします。 ● 参加費の領収証は、原則として金融機関の振込の控えをもって代えさせていただきます。特に領収証が必要な場合は、別途株式会社アイフィスまでご連絡ください(15 お問い合わせ先参照)。 ● 誤入金等によるご返金の必要が生じた場合、恐れ入りますが振込手数料をご負担いただくこととなりますのであらかじめご了承ください。
14 その他	● 全体会(開会・基調講演・記念講演)の動画視聴にかかる専用ページへのログイン情報については、参加決定後、申込担当者様宛にメールでご案内いたします。 ● 分科会ご参加にあたっての参加券を、後日郵送にて申込担当者様宛にお送りいたします。 ● 大会資料は5月末ごろ、郵送で申込担当者様宛に送付予定です。予定に変更があった場合は、申込担当者様宛にメールでご案内いたします。
15 お問い合わせ先	**【開催内容について】** 社会福祉法人東京都社会福祉協議会 福祉部 児童・障害担当 保育部会事務局 (TEL)03－3268－7174 (FAX)03－3268－0635 **【参加申込み・お振込み・参加券等について】** 株式会社アイフィス 〒112-0005 東京都文京区水道 2-10-13 (TEL)03-6825-6178 (FAX) 03-5395-1206 受付時間:10:00 から 17:00(土日祝日除く)

◆プログラム◆

全体会（オンデマンド配信） 6月3日（月）～30日（日）

◆第１部　開　会

○開会挨拶
　社会福祉法人東京都社会福祉協議会　保育部会部会長

○来賓祝辞　・行政説明
　東京都福祉局　子供･子育て支援部　保育支援課　（予定）

◆第２部　基調講演

「乳幼児期の子どもの育ちを考える　～保育って楽しい！　明るい未来に向けて保育の魅力を見つめ直す～」

講師
学習院大学　文学部教育学科
教授
秋田　喜代美（あきた　きよみ）氏

子どもたちが共に育ちあっていくことに同僚や保護者と共によろこびを感じられるような実践ができる職場にしていく当事者性が求められていると思います。
もちろん、保育には課題は山積です。でも子どもの学び育つ権利を保障していくために、私たちは共に学びあい育ちあっていくことが求められていると思います。
私が出会った園での事例をご紹介しながら実際に考えていきたいと思います。

〔プロフィール〕
学習院大学文学部教授。東京大学名誉教授。博士（教育学）。
東京大学大学院教育学研究科博士課程修了後、東京大学教育学部助手、立教大学助教授、東京大学大学院教授を経て、2019年４月より現職、日本保育学会会長、日本発達心理学会代表理事。こども家庭庁こども家庭審議会会長、文部科学省今後の幼児教育課程等検討委員会副座長。近著に『研修アドバイザーと共に創る新しい園内研修のかたち』（編著、フレーベル館、2023）、『園内研修でもっと豊かな園づくり：学びが広がる･深まる』（編著、中央法規、2023）等。

「出会う・試す・創り出す
～“モノ”から広がる　世界への扉～」

講師

一般社団法人　子どもと育ち総合研究所

主任研究員

宍戸　信子（ししど　のぶこ）氏

そしておもちゃは子どもが初めて出会う芸術・文化。
だからこそ、おもちゃは人と人とを結ぶ道具であるとともに、
「生きる力」「表現できる自分」に出会うための魅力的な道具であってほしい

あそびは、豊かな暮らしの中で広がる学びそのものです。

自ら思わずあそびたくなるきっかけは、「モノ」「コト」「人」と様々な形で、すでにいつも子どもの周りに存在しています。

- 自分の周りの起こることに興味関心を持ったり真似たりすること
- それに自分自身の方法で働きかけ変化・工夫（＝表現）すること
- 自分以外の気づきや表現があることに出会うこと、そして共感したり受け入れたり意見・主張すること

これらの繰り返しこそが遊び＝学びであり、あそびは「文化」「科学」「言葉」「社会」など様々な世界を探索・実験させる体験や経験であり、それを意識し子どものよき理解者・協力者でいるのがおとなの大事な仕事である。

そう私に教えて続けてくれているのが「おもちゃ」であり「モノのある保育環境」であり「ピラミーデ」です。

今日は皆さんとともに「モノ」の持つ力や意味を入り口にして、子どもがあそべる（＝自力での選択・決定・解決、人とつながる、世界を広げる）環境にどんな視点で保育に「おもちゃ＝モノ」を活かしていけるのかを一緒に考えてみたいと思っています。

画面越しにお目にかかれますこと、楽しみにしています。

〔プロフィール〕

京都生まれ。平安女学院短期大学保育科　卒業。
幼稚園教諭として保育に没頭後、「大阪おもちゃライブラリー」に入職、障害児療育活動（＝豊かなあそびをつくるおもちゃ）・ヨーロッパの保育やオルフ教育との出会いをきっかけに、「豊かなあそびと子どもの育ち」「誰でもみんなアーティスト―創造的な表現あそび」などをテーマに研究・実践し、現在に至る。今は、「ピラミッドメソッド」「おもちゃコーディネーター」の講師をはじめ、保育・教育現場から依頼される様々なテーマを通じて、気づき学び合う場としての研修・講座、また実践として“音も動きも造形も…つなげる表現・芸術あそびのワークショップ”もすすめる。

＊ピラミーデ（＝ピラミッドメソッド）ティーチャー／チューター　両資格取得。
＊2002-3 年、オルフ研究所（オーストリア）のインターナショナルコースに参加。

子どもと育ち総合研究所
https://play-dev.jp/

分科会（会場集合型） 6月20日（木）10時～16時

1 子どもの育ちを保障する

保育所の大きな役割は、子ども自身が自ら伸びようとする主体的な力を引き出し、将来、人と手をとりあって社会の中で生きていくための、基礎となる力を育てることです。子どもの発達支援を中心に据えた保育を展開するために「質の高い保育」について研究を深め、その保育を実践する人材を育成し、研修の充実を図ります。

「すべての子どもに向けて新たな時代の保育実践」 ～保育所保育指針に基づく質の高い保育を提供する～

① 質の高い保育のあり方について研究をすすめ、実践に繋げる

② 自己評価等を研究・活用し、保育の質の向上をすすめる

③ 利用者の個別ニーズに対応した、きめ細かな保育を提供する

第１分科会 保育所保育指針と保育実践を考える ― 0歳児 ―

【助言者】 東京成徳大学 子ども学部 教授 善本 眞弓 氏

【発表者】

1. 社会福祉法人カタバミ会 ふきのとう保育園 運動遊びモデルクラス（江戸川区）
「0歳児から始めて繋がる子どもの運動能力の発達～5歳児までの追跡を通して～」
2. 社会福祉法人新田保育園（足立区）
「コロナ禍での乳児期の身体づくり」

第２分科会 保育所保育指針と保育実践を考える ― 1歳児 ―

【助言者】 浦和大学 社会学部総合福祉学科 特任教授 加藤 邦子 氏

【発表者】

1. 幼保連携型認定こども園 昭島ナオミこども園（昭島市）
「言葉の支援～1歳児期の重要性～」

第３分科会 保育所保育指針と保育実践を考える ― 2歳児 ―

【助言者】 東京成徳短期大学 特任教授 寺田 清美 氏

【発表者】

1. 中央区立月島保育園（中央区）
「『声かけと見守りのバランス』～2歳児保育の事例を通して見えてきたもの～」
2. 荒川区立公立保育園（荒川区）
「子どもの主体性を育む関わりと保育環境の考察」
3. 社会福祉法人志正会 大久野保育園（日の出町）
「乳児保育から幼児期の保育への移行について～生活と遊びの発達段階から、移行時期・方法を考える～」

第４分科会 保育所保育指針と保育実践を考える ― 3歳以上児 ―

【助言者】 白梅学園大学 こども学部 教授 師岡 章 氏

【発表者】

1. 台東区立保育園10園、石浜橋場こども園1園 共同研究プロジェクト（台東区）
「『幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿』に繋がる環境作りとはどうあるべきか
～午後の遊びが充実するための環境作りを通して～」
2. 葛飾区半田保育園（葛飾区）
「コオーディネーショントレーニングをとおして見えてきた効果」
3. 社会福祉法人南町保育会 さくら中央保育園（大田区）
「園での活動と子どもの遊びの関係」

第５分科会　配慮を必要とする子どもや家庭への支援にむけて

『保育現場において、さまざまな配慮を必要とする子、発達に課題のある子の増加が報告されています。

日々の保育における、子どもとその保護者への関わり方に関して、園全体で共通理解を図るとともに保護者の抱える子育て上の悩みを受け留めながら、信頼関係に基づく支援を実施してゆく保育が求められています。

保育は、子どもの家庭を支えています。その園での生活体験が、障がいを抱える子ども一人ひとりの発達を支え、そして、同じ時間を共有しながら一緒に過ごしている元気なお友達との互いの成長を支え合っています。保育は、みんなの明日へと繋がっています・・・みんな一緒に生きてゆくために！！』

本分科会では、困難を抱える子ども、その保護者への具体的支援を目指して、現場の実践報告から知見を深めたいと考えています。

【助言者】 臨床発達心理士・スーパーバイザー　橋場　隆 氏

【発表者】

１．社会福祉法人花窓堂　由木保育園（八王子市）

「抜き出し活動（タイニー）～一人ひとりが輝ける未来に向けて、今できる事～」

２．社会福祉法人道輝会　みちてる保育園（中央区）

「配慮を必要とする子どもと家庭の笑顔のために」

３．東久留米市立ひばり保育園（東久留米市）

「一人ひとりの好きなこと・やりたいことを通して認め合える仲間関係を築く（仮）」

第６分科会　職員の資質向上を図る

これまで待機児童解消に向けて多くの保育所が新設されてきましたが、近年では待機児童は減少傾向にあり、量の問題は解消されつつあります。また、就学前の豊かな経験が後の人生に大きな影響を与えること、幼少期の非認知能力の向上が大事であることが明らかとなっています。このような中、現在、就学前の保育は、量から質へと大きな転換が図られています。今後、保育の質の中核を担う保育所職員一人ひとりの資質向上、チームワークの形成に加え、園組織のマネジメントがより一層求められるといえるでしょう。

本テーマでは、保育所職員の資質向上に向けた効果的・具体的な実践、そして保育従事者に求められる自己啓発のための取組みについて、研究を深めます。

【助言者】 東京家政大学子ども支援学部　教授　小櫃 智子　氏

【発表者】

１．千代田区公立園　共同研究会（千代田区）

「子どもの主体性を育む保育者のかかわり」

２．墨田区立保育園　共同研究（墨田区）

「子どもの主体性を育むための保育者の在り方　～『子どもを信じて待つ』ということを問い直して～」

2　多様な連携と協働で、子育てライフを支援する

子どもが心身ともに豊かに成長するためには子どもと家庭を一体的に捉えて、その家庭を支援することが必要です。また、子育てへの不安や児童虐待への対応等、子育て家庭への支援は地域社会を基盤とする多面的な取り組みの充実が求められています。保育施設は様々な機関・組織・団体や住民が連携し、子育て支援の拠点として、すべての家庭を対象とした取組を考えていきます。

① 保育施設を利用する保護者への支援を充実する
② 地域子育て家庭への支援を充実する
③ 子育ち・子育て支援のネットワークの中で保育施設の役割を発揮する
④ 地域の保育機能を強化する
⑤ 子育てへの関心を高める
⑥ 子育て文化につながる活動を広げる

第7分科会　子どもの心と身体の食育活動を考える　～家庭や地域との連携による食育の推進～ 保育所保育指針で「食育の推進」が取り上げられ、子どもが主体的に参加し、食べることを楽しむことが重要視されています。子ども同士、保育士や給食担当者や地域の人たちと一緒に食べたり食事を作ったりすることを経験して子どもが人と関わる力を育てることも求められています。そのためには、調理する人への感謝の気持ちが育つようまた、「美味しく、楽しく食べること」が大切であり、子どもが安心して食べられる環境にあること、保護者との信頼関係や職員間での連携が必要です。 本テーマでは、改めて食を通じた学びの機会を充実させるための保育実践、保護者・地域と連携した食育、食物アレルギーへの対応について研究を深めます。
【助言者】大妻女子大学短期大学部家政科食物栄養専攻　准教授　　小野　友紀　氏 【発表者】 1．社会福祉法人翼友会　ナーサリー中野の森　食育委員会（中野区） 「～食べる事は生きる事～」 2．社会福祉法人たつの子の会　羽村しらうめ保育園（羽村市） 「和食の取り組み　～栄養士と保育士の視点から考える～」

第8分科会　保育所の持つ機能を保護者支援・地域支援・保幼小の連携に活かして **～子どもにとってより良い育ちを求め　その支援を考える～** 地域のつながりが弱まる中、核家族化など家庭形態の変化により、子育てに孤立感・孤独感を深めている家庭が増加し、その支援や援助のあり方も様々になっています。保育者は、保護者が子育ての喜びが得られるように、気持ちを読み取る力をつけながら、思いや不安の解消に向け、子育て力の向上につながるよう保育所の機能を活かした支援が求められています。さらに貧困に起因する課題への対応、児童虐待予防など地域の関係機関との連携・協働を持ってすすめるべき取り組みも多々あります。 本テーマでは、子どものより良い育ちに向け、多様な機関との連携・協働の進め方や保育所が果たす役割について研究を深めます。
【助言者】 白百合心理・社会福祉研究所 所長　青木　紀久代氏 【発表者】 1．社会福祉法人聖母の会　聖ヨゼフ保育園（渋谷区） 「『保護者支援』『地域支援』『保幼小の連携』の実践と考察」 2．社会福祉法人双葉の園　双葉の園保育園（目黒区） 「子育てひろば　小さい花の家の取り組み」

3　子どもの心身の健全な発達を考える

第 9 分科会　コオーディネーショントレーニングで大人と子どもの脳力アップ！

最近増えている子どもの“からだのおかしさ”に関する調査では、「保育中、じっとしていない」や「背中ぐにゃ」といった子どもの増加が報告されています。それと同時に、今後の保育現場を担う学生や若者達の不器用さや身のこなし不自然さ、対面コミュニケーション能力の低下なども指摘されています。

本分科会で紹介する「コオーディネーショントレーニング」は、運動と神経の発達の順序に沿って脳・神経系に刺激を与えることで、子どもから大人まで運動の学習能力を高める方法です。幼児期においては、“遊びの本質”となる2つのことを引き出して、自ら進んで運動しようとする意欲を高めていくアプローチになります。

東京都教育委員会は「総合的な子供の基礎体力向上方策」に位置づけてJACOTと 10 年間推進しました。導入した園や学校からは、体力・運動能力の向上、ケガの減少、集中力・姿勢への効果が報告されています。

千代田区教育委員会は令和 4 年度から全ての区立保育園・幼稚園・こども園・小学校・中学校・中等教育学校で導入を始めました。NHKの「ガッテン！」や「おはよう日本」で紹介され、子どもだけでなく大人にも効果があり、運動神経を良くするトレーニング。スキップやフラフープが出来なかった先生が急に出来るようになったり、腰痛が改善されたりといった事例があります。今回は講義と実技を通じて、保育現場での実践方法をお伝えします。

＊第 9 分科会にご参加される方は、体育館用の靴、動きやすい服装でお越しください。

【講　師】日本コオーディネーショントレーニング協会・JACOT　副理事長・事務局長　菅野　映　氏